

年金教育の現状と新たな視点

～「わたしの年金」と「自らの人生を舵取る力」～

厚生労働省 年金局 年金広報企画室

菊地 英明

【導入】 なぜ今、年金教育が重要なのか



- 現代社会は「予測困難な時代」に直面しており、個々人の豊かな人生と社会の持続可能性のために、金融教育や年金を含む社会保障教育が重要となっています。
- 本日は、金融教育に関する世界的な動向を踏まえ、年金教育が果たすべき役割と新たな視点を考察します。

世界が直面する課題

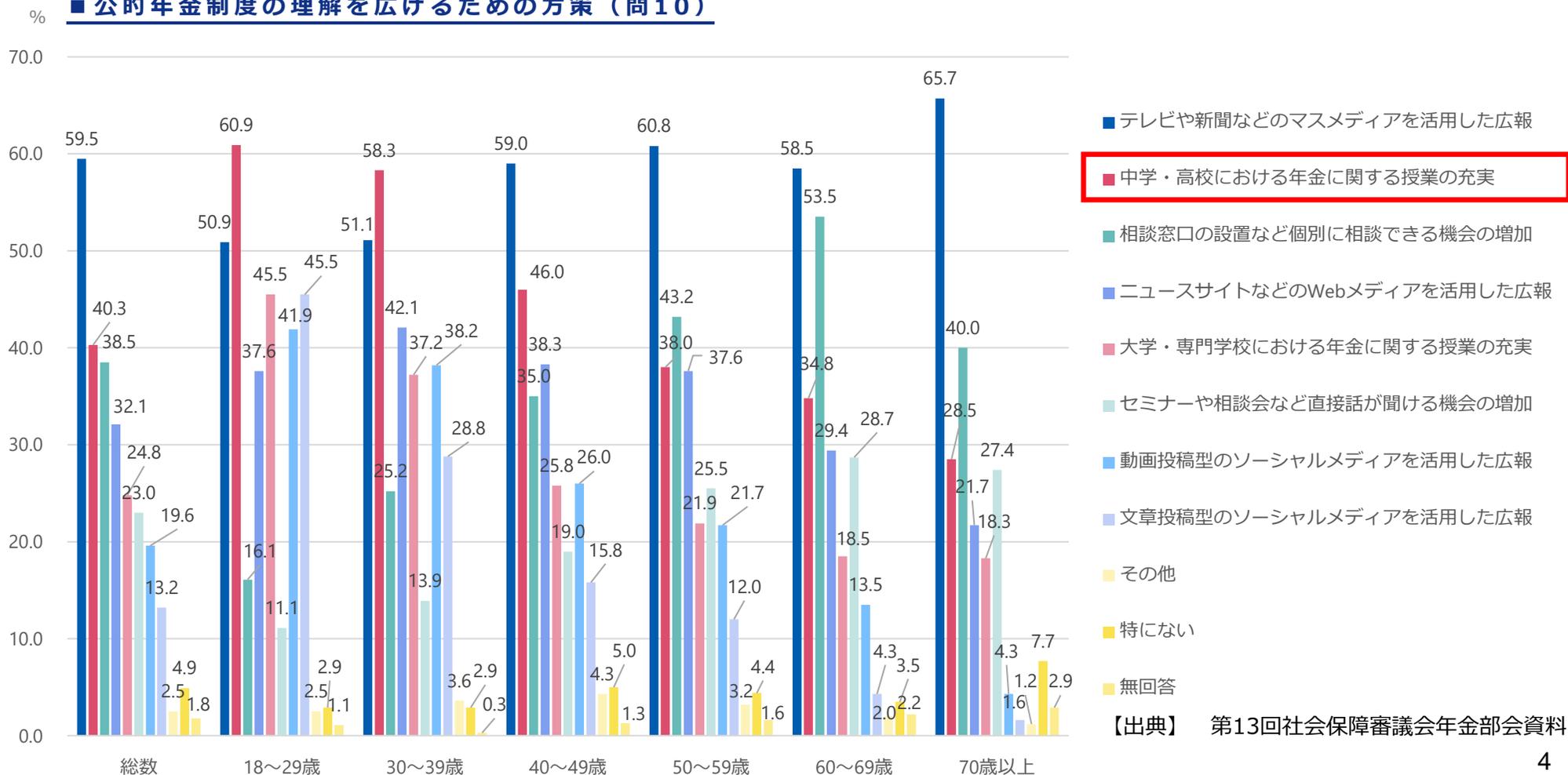
- 世界の年金制度や金融教育を牽引するアメリカ、ペンシルベニア大学のオリビア・ミッチェル教授らが行った研究によると、アメリカにおいて「貯蓄が少なすぎた」と後悔する人が52%に上ります。
- 同研究では、「長期介護保険に加入せず、長く働かなかった」(33%)、「私的年金に加入しなかった」(26%)「年金の請求手続きが早すぎた」(19%)といった後悔も報告されています。これらの後悔の主な理由は、将来の計画不足や日々の生活で手一杯だったことです。
- EUが2024年に発表した最新のレポートによるとEU-27諸国平均で、65歳以上の5人に1人以上が貧困または社会的排除のリスクに直面しており、公的年金制度の重要性が再認識されています。
- OECD PISAが2022年に実施した調査でも、金融の概念とリスクに関する知識と理解が深まることで、成人や若者の金融上の意思決定が改善される可能性があるため、金融リテラシーは現在、不可欠なライフスキルとして世界的に認識されています。



公的年金制度への意識・ニーズについて (令和5年 世論調査)

- 公的年金制度の理解を広げるための方策は、59.5%の方が「テレビや新聞などのマスメディアを活用した広報」と回答（総数）。また、18歳以上29歳未満、30歳以上39歳未満の方からは「中学・高校における年金に関する授業の充実」を求める割合が最も高かった。

■ 公的年金制度の理解を広げるための方策（問10）

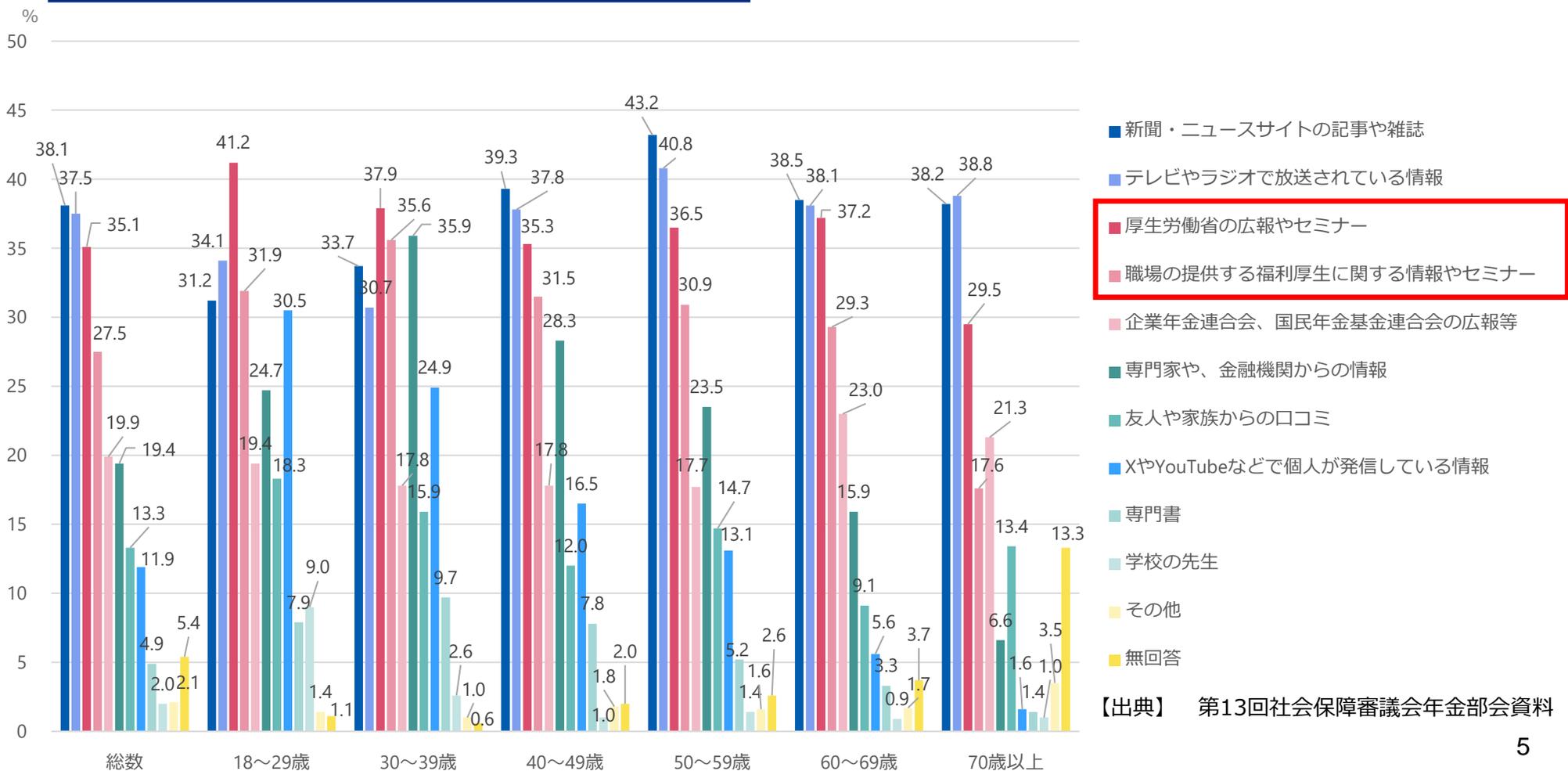


【出典】 第13回社会保障審議会年金部会資料

私的年金制度への意識・ニーズについて（令和5年 世論調査）

○ 「私的年金制度について参考にしたい情報源」については、回答全体で見ると「新聞・ニュースサイトの記事や雑誌」の割合が38.1%と最も高いが、「テレビやラジオで放送されている情報」や「厚生労働省の広報やセミナー」も一定程度の回答を得ていた。また、年齢層が低いほど「旧Twitter (X) やYouTubeなどで個人が発信している情報」の割合が高かった。

■ 私的年金制度について参考にしたい情報源（問24）



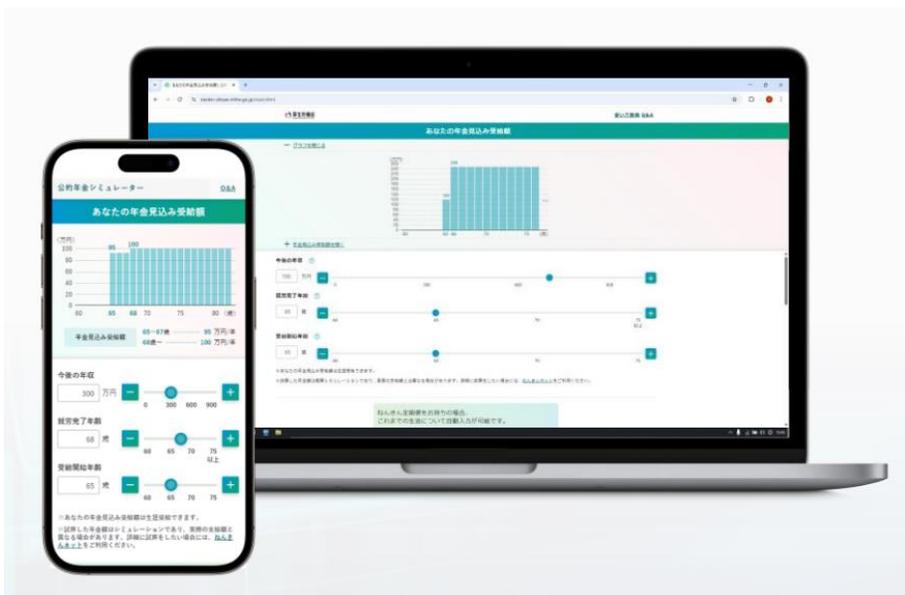
現在の日本の年金教育における課題

- **公民科では授業時間が不足し、社会保障制度や年金制度の仕組みが中心で、個人の備えに関する内容は手薄とされています。**
- 教員からは、**知識不足（約4割）**や**情報入手の難しさ（約3割）**が課題として挙げられています。
- **家庭科と公共等の教科間の連携も難しい現状があります。**
- 家庭科では年金を「生活設計」の一部として教えたい意向があるものの、**限られた授業時間**（年間約**35回**で衣食住、家族、福祉、家計など全てを扱う）の中でバランスよく伝えることが困難とされています。
- 生徒からは「どうせ自分たちの時代にはもらえないんでしょ」といった不信感の声も聞かれ、制度説明だけでは「**自分ごと**」として**響きにくい現状**という指摘もあります。

新たな視点1 金融教育と社会保障教育と連携した早期からの年金教育

- 「わたしの年金」の理解促進と「自らの人生を舵取りする力」育成の一環として、公的年金・私的年金を**個人の長期的なライフプラン、キャリアプラン**と切り離せないものとして位置づける。
- 中高生の文系・理系や学部選択に大きく影響する**将来の職業選択やライフイベント**（結婚、子育て、転職など）が**年金受給額や老後資産形成に与える影響をシミュレーション**するなど、職業やキャリア選択と年金制度・社会保険制度が密接に関連していることを「**自分ごと**」となるような**きっかけ作り**を行う。
- 就職後も企業や身近な場で年金や社会保障と金融経済の知識を学ぶことで社会保障の重要性を踏まえつつ、個人の「貯蓄・投資が少なすぎた」という経済的意思決定の後悔を未然に防ぐ。
- **次期公的年金シミュレーター**等の簡易に学べるデジタル教材を活用し、生徒が「**自分ごと**」として年金を捉え、**人生設計を考える**ことで、**学習意欲の向上**につなげる。

新たな視点2 デジタルツールを活用した「個別最適な」年金シミュレーション教材



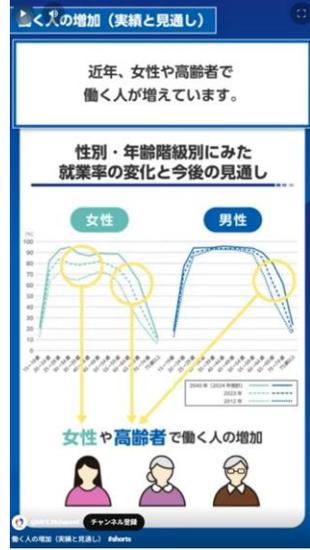
- デジタルツールを用いて、個人のキャリアパスやライフイベントが将来の年金受給額や老後資産形成にどう影響するかを、**インタラクティブにシミュレーションできる教材**の開発導入が有効とされています。
- 現在開発中の次期公的年金シミュレーターは、最小限の入力でグラフを表示し、これまでの老齢年金の試算に加え、**障害年金や私的年金のiDeCoも加えて長期的なライフプランを考える際のシミュレーションが可能**となります。
- 多様な教材が乱立する現状を踏まえ、これまで作成した**分かりやすい年金制度資料や年金教育教材のポータルサイト化と検索性向上**により、**教員が学校現場で使いやすい教材にアクセスできる環境を整備**することも求められます。

新たな視点3 社会の創り手を育む公的年金制度教育

- 公的年金制度を単なる「仕組み」としてだけでなく、「社会を創り、支える、みんなの年金」として理解を促します。高校の公民科や総合的な探究の時間等の様々な授業時間で扱える「みんなの年金」を伝えるため年金財政の現状や将来の課題、制度改革に関して、データに基づいた対話的・協働的な学習を通じて、将来の制度設計に対する主体的な参加意識を育みます。

【年金財政のデータを伝える15秒ショート動画】

【制度改革を伝えるインフォグラフィック資料】



パートの方の
社会保険適用拡大
短時間労働者
に向けて

撤廃

撤廃

週の勤務時間
20時間以上

要件が
シンプルになります。

社会保険の加入対象の拡大①

- ✓ 社会保険（厚生年金・健康保険）に加入する要件をわかりやすくします。
- ✓ これにより、働き方が選びやすくなるとともに、将来の年金の増額などのメリットを受けられます。

見直し① 短時間労働者の加入要件の見直し

加入要件が
シンプルに！

- ✓ 給与が月額88,000円以上
- ✓ 週の勤務が20時間以上

※学生は対象外です

賃金要件の撤廃

いわゆる年収106万円の壁がなくなります
全国の最低賃金の引上げ
の状況を見極めて、3年以内に廃止します

企業規模要件の撤廃

働く企業の規模にかかわらず加入できるようになります
10年かけて段階的に対象の企業を拡大します

現在の対象	2027年 10月から	2029年 10月から	2032年 10月から	2035年 10月から
51人以上の企業	36人以上の企業	21人以上の企業	11人以上の企業	10人以下の企業

※上記の時期を待たずとも労働条件に基づき加入することも可能です。

様々な地域での活動

■ 年金局職員と学生との対話による意見交換・相互理解の促進
扱ったテーマに関する意見交換や質疑応答を行うとともに、年金制度に対する素朴な疑問や将来に対する不安についても、年金局において年金制度を実際に企画立案、事業運営を担う職員の視点から回答しています。

北海道大学での学生対話集会の例

■ 地方厚生局、年金事務所の参加事例
・学生の理解度やニーズに合わせて学校ごとにテーマを調整し実施。最近では地方厚生局や年金事務所が主体となって開催する年金対話集會に本省職員が参加するケースが多くなっており、地方厚生局と本省が連携し、双方向による普及活動が全国的に進んでいます。

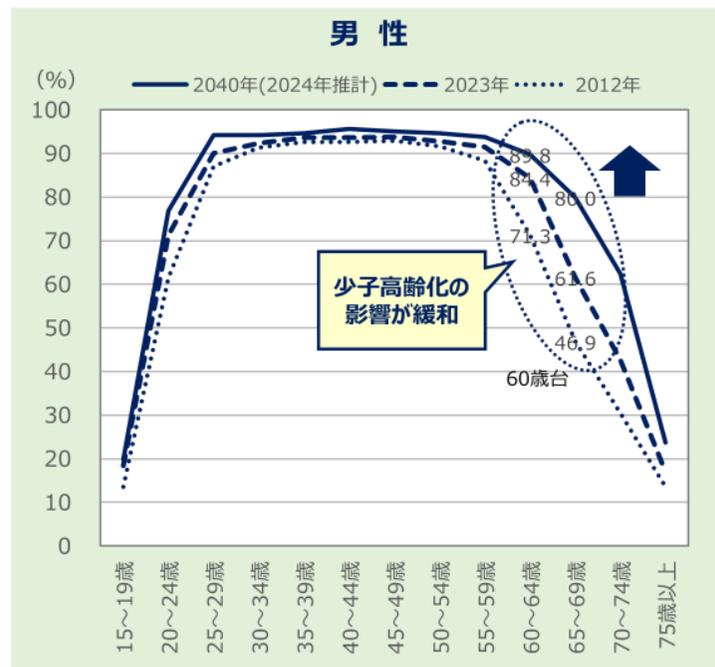


新たな視点4 「わたしの年金」と「自らの人生を舵取りする力」①

性別・年齢階級別にみた就業率の変化と今後の見通し

近年、女性や高齢者で働く人が増えており、今後もさらに多くの人が働く見込まれています。

➡ 現役世代の人口が減ったとしても、働く人が増えれば、就業者数は同じようには減らないので、年金制度の持続可能性が高まります。



	2023年現在	→	2040年 (2024年推計)	[前回推計]
就業者総数	6,747万人	→	6,734万人	[6,024万人]
15歳以上人口に占める就業者の割合	61.2%	→	66.4%	[60.9%]

新たな視点4 「わたしの年金」と「自らの人生を舵取りする力」②

世代別にみた将来の平均年金額や年金額分布の変化

現在65歳の人の受け取る年金額と、現在30歳の人将来受け取る年金額を比較すると、過去30年投影ケースでは、

- 男性は、平均年金額は概ね横ばいです。
- 女性は、働く人の増加を背景に**厚生年金の加入期間が伸びる**ことで、**平均年金額は物価の伸びを上回って賃金と同じくらいのペースで上昇**し、年金額の分布も、**低年金者が減少する**見通しです。

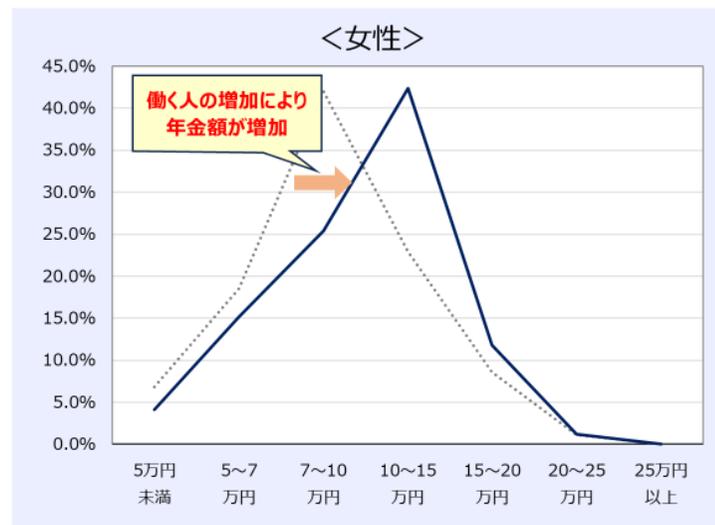
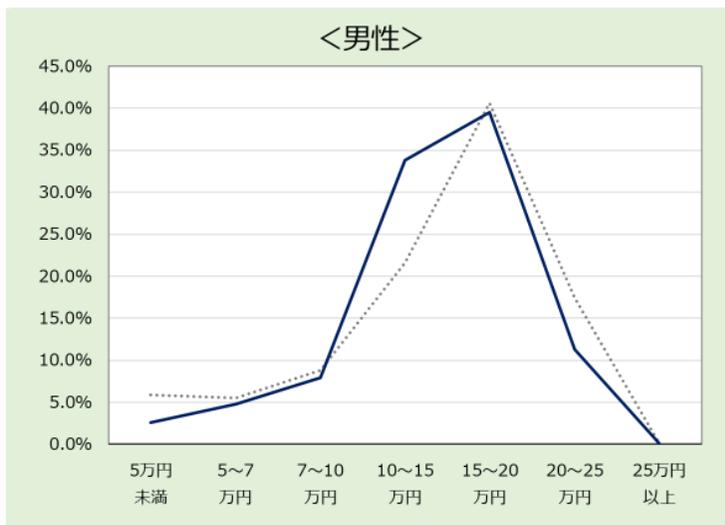
＜男性の平均年金額＞

	平均年金月額
1959年度生 <65歳>	14.9万円
1994年度生 <30歳>	14.7万円

＜女性の平均年金額＞

	平均年金月額
1959年度生 <65歳>	9.3万円
1994年度生 <30歳>	10.7万円

過去30年投影ケース ※年金額は物価上昇率で2024年度に割り戻した実質額。



注：試算における人口の前提は、中位推計。

..... 1959年度生<65歳> — 1994年度生<30歳>

新たな視点4 「わたしの年金」と「自らの人生を舵取りする力」③

世代別にみた将来の平均年金額や年金額分布の変化

現在65歳の人の受け取る年金額と、現在30歳の人将来受け取る年金額を比較すると、成長型経済移行・継続ケースでは、**実質賃金上昇率が高いことや、働く人の増加を背景に厚生年金の加入期間が伸びることで、平均年金額は物価の伸びを上回って上昇します。年金額の分布も、低年金者が減少する見通しです。**

キーワード

実質賃金：賃金所得が全て消費に充てられたとしたらどれほどの物を購入する力を有することになるかを計算しようとするものです。

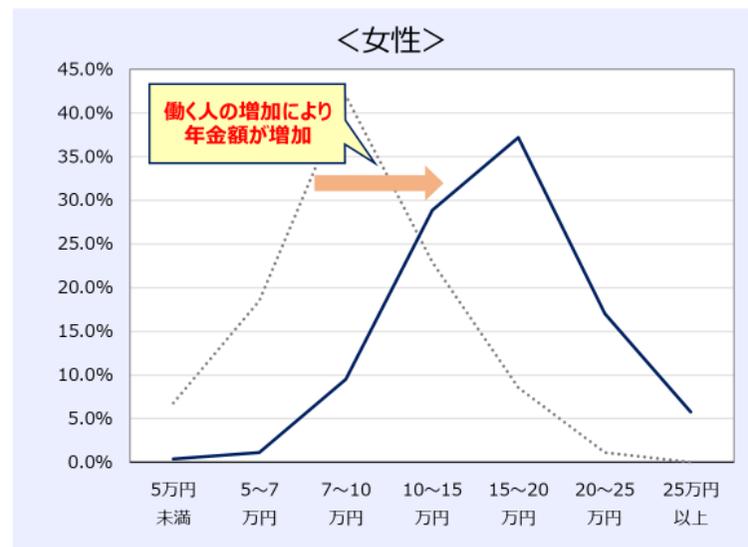
<男性の平均年金額>

	平均年金額
1959年度生<65歳>	14.9万円
1994年度生<30歳>	21.6万円

<女性の平均年金額>

	平均年金額
1959年度生<65歳>	9.3万円
1994年度生<30歳>	16.4万円

成長型経済移行・継続ケース ※年金額は物価上昇率で2024年度に割り戻した実質額。

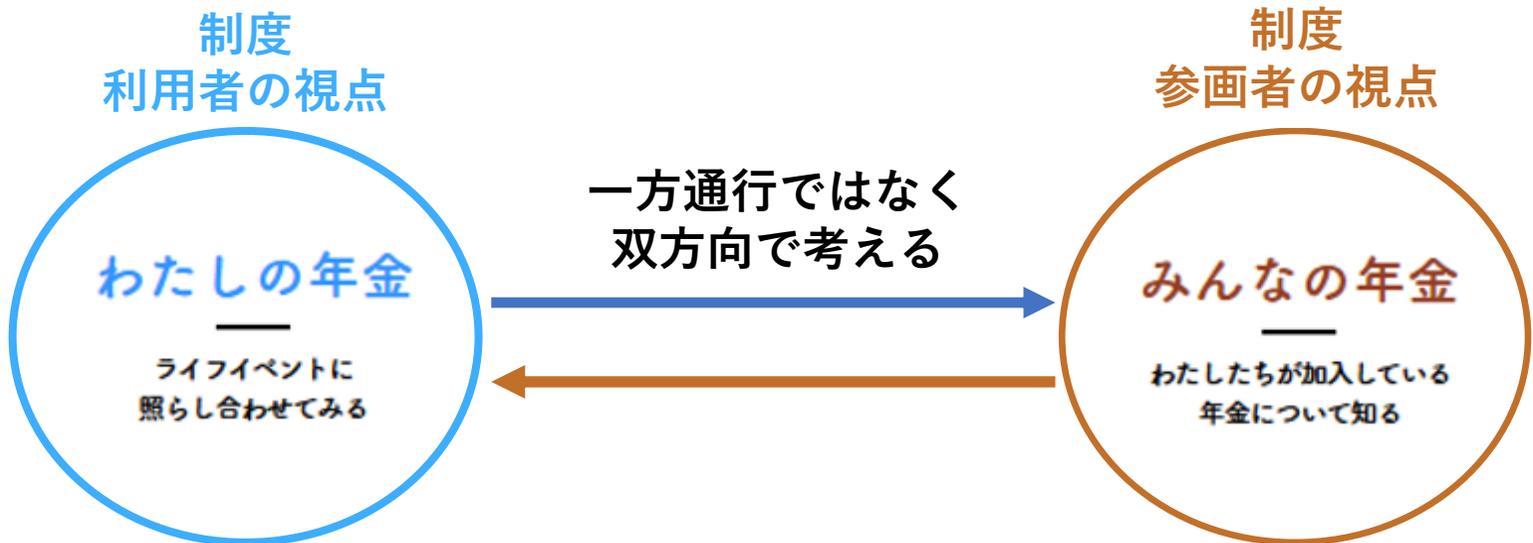


注：試算における人口の前提は、中位推計。

..... 1959年度生<65歳> — 1994年度生<30歳>

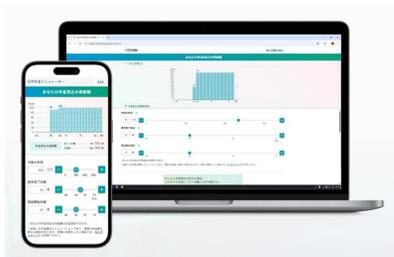
新たな視点5 制度利用者としての「わたしの年金」と「自らの人生を舵取りする力」

労働市場の流動化、就業期間の長期化、マルチステージの人生モデルへの転換といった社会構造の変化に対応するため、幅広い世代の方に「自らの人生を舵取りできる力」のための「わたしの年金」を分かりやすく伝えるための視点を持つ必要があります。



- キャリアプランと年金制度の関係は？
- 私の将来の公的年金見込み額は？
- iDeCoなどの私的年金は？

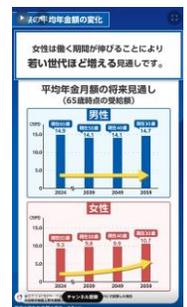
- 公的年金・私的年金の仕組みは？
- 公的年金制度の持続可能性は？
- 自助でどのように備えるべき？



公的年金シミュレーター



教育用教材



ショート動画



分かりやすい資料

結び 新たな年金教育が育む力



- 新たな視点を取り入れた年金教育は、子どもたちが複雑な社会を生き抜くための「**自らの人生を舵取りする力**」と、社会をより良くしていく「**社会の創り手**」となるため、年金制度を含む社会保障リテラシー及び金融リテラシーを育むことを目的としています。

第21回年金広報検討会
令和7年7月30日（水）

資料4-3

第20回年金広報検討会 資料2-1抜粋（一部改変）

参考資料 年金教育の取組について

現行の年金広報、年金教育の取組

小学生以下

中高生

大学生・院生

社会人

生涯を通じた年金教育

■ 若年者向け参加型教育

こども霞が関
見学デー

学生年金対話集会

ユース年金学会



※ 日本年金機構で高校生や大学生向けの年金セミナーなどを実施

■ 教育資料の開発と活用

学研まんが
年金のひみつ

中高生向け教育教材



YouTube動画を活用した年金教育(QuizKnockとのコラボ動画)



年金の見える化



公的年金シミュレーター(令和7年6月末時点の試算数866万回超)

ねんきんネット(令和7年3月末の登録数約1,355万件)

年金額分布推計に基づく多様なライフコースに応じた年金額の公表

年金制度に関する広報



年金財政動画



適用拡大動画

被用者保険の適用拡大の周知広報(適用拡大特設サイト)

年金財政に関する動画、広報資料、財政検証解説まんが

生涯を通じた年金教育の取組① こども霞が関見学デー

「こども霞が関見学デー」は、霞が関に所在する文部科学省をはじめ、各府省庁等が連携し、所管の業務説明や関連業務の展示等を行うことにより、夏休み期間中に子供たちに広く社会を知ってもらうこと、政府の施策に対する理解を深めてもらうこと、活動参加を通じて親子の触れ合いを深めてもらうことを目的とした取組であり、多くの子供たちと年金について楽しく学ぶイベントを開催。

令和4年度の取組

■ 概要

日時:8月4日(水)14:00~15:00

ゲスト:小島よしお氏

日立のコミュニケーションロボット・EMIEW(エミュー)

対象:3歳以上の未就学児、小学生、中学生、
および保護者

参加数: オンライン・約84件



令和5年度の取組

■ 概要

日時:8月2日(水)10:30~12:00

ゲスト:伊沢拓司氏(QuizKnock)

対象:3歳以上の未就学児、小学生、中学生、
および保護者

参加数:対面・保護者を含めて約100名、
オンライン・約40名



令和6年度の取組

■ 概要

日時:8月7日(水)10:30~12:00

ゲスト:伊沢拓司氏(QuizKnock)

対象:3歳以上の未就学児、小学生、中学生、
および保護者

参加数:対面・保護者を含めて約100名



生涯を通じた年金教育の取組② 「学研まんががひみつ文庫 特別編 年金のひみつ」

若い世代に年金制度について考える機会を提供するため、学生との年金対話集会やこども霞が関見学デー、年金広報コンテスト等の年金教育・広報活動を実施している。また、地域展開事業の中で、個々の年金事務所の創意工夫により幼稚園児や小学生等を対象とした年金を題材とした塗り絵コンテスト等を実施しており、子ども達が、公的年金制度を楽しく学ぶための年金教育教材を制作し、電子書籍として掲載するとともに、全国の小中学校及び公立図書館に配本している。

概要

配信日:2022年7月
 閲覧数:12.5万回(2023年7月末時点)
 配本数:小学校 19,569校
 中学校 10,312校
 特別支援学級 1,166校
 公立図書館 3,297カ所

【ストーリー】
 みんなは「年金」って、どんなものか知っている？小学5年生のショウタたちは、職場見学をきっかけに「年金」のことを、知ることになったよ。さまざまな人との出会いで、ショウタたちは「年金」が社会を支える大事な仕組みだと気づいたんだ。みんなも、ショウタたちといっしょに「年金」にふれてみよう！



<https://kids.gakken.co.jp/himitsu/library-social001/>

年金対話集会の概要

■ 趣旨・概要

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000143356_00005.html

- ・ 学生と厚生労働省(年金局)職員が年金をテーマに語り合うことを通じて、学生が年金について考えるきっかけにするとともに、学生からの意見や指摘を今後の年金行政に活かす。
- ・ 学校のご協力の下、授業の時間をお借りし、学生の理解度やニーズに合わせて学校ごとにテーマを調整し実施。

■ 進行・テーマ選定

第1部 導入講義

■ 年金制度改正と関連したテーマで講義を実施

年金制度の仕組みや意義、年金財政などに加えて、学生の問題意識や関心がある論点を事前に把握した上で、年金制度改正と関連したテーマや内容を含む資料を用いて年金局の職員が講義を行った。

■ 講義で扱ったテーマ

各大学で、適用拡大、第3号被保険者、遺族年金、私的年金、基礎年金拠出期間45年化等の中から1~2のテーマを選択
(高校では中高生向けの新たな教育資材を使用)

<導入講義の様子>



第2部 意見交換

■ 年金局職員と学生との対話による意見交換・相互理解の促進

扱ったテーマに関する意見交換や質疑応答を行うとともに、年金制度に対する素朴な疑問や将来に対する不安についても、年金局において年金制度を実際に企画立案、事業運営を担う職員の視点から回答した。

■ アンケートを通じた意見収集

講義後、学生へのアンケートを実施し、扱ったテーマに対する意見や、講義の感想など収集した。(具体的な内容は次頁以降)

<意見交換の様子>



■ 令和6年度開催実績

令和6年度は37回(大学・大学院19回、高校18回)開催した。

【大学】

帝京大学(2回)
関西学院大学
相模女子大学
お茶の水女子大学
慶應義塾大学
名古屋大学
北海道大学・大学院
愛知学院大学
九州大学
南山大学
流通経済大学
中京大学
東北大学
日本女子大学
東北福祉大学
宮城大学
立教大学

【高校】

横浜女学院高等学校
都立農業高等学校
都立東久留米総合高等学校
都立目黒高等学校(12回)
帝京長岡高等学校
都立世田谷泉高等学校
都立蒲田高等学校

※令和7年3月時点。開催日程順。

こども・若者からの意見聴取に関する令和6年度の取組について

1. 大学生向け年金対話集会の機能強化

⇒令和元年度から取組を行っている年金対話集会を活用した意見交換を継続実施。
さらに、令和6年度は年金制度改正と関連した意見聴取を行う。

年金制度改正と関連したテーマや内容を含む講義資料を追加し、学生との意見交換を実施（拡充）
年金制度に対する提案や要望などを募集するアンケート項目を追加（新規）

※大学側と事前調整の上、年金部会委員や企業年金・個人年金部会委員の年金対話集会への参加も検討する。

2. 新たな年金教育教材を活用した中高生向け年金対話集会の実施

⇒より幅広い年齢層から意見を聴くため、中高生向けの年金対話集会を実施。

- 中高生が興味を持ち、楽しく学ぶことができる新たな年金教育教材を活用（新規）
- 講義の後に意見交換を実施し、中高生の年金制度に対する意見を聴取（新規）

生涯を通じた年金教育の取組③

キャリア選択と公的年金・私的年金に関する年金教育のパイロット授業

令和5年度では、従来の年金教育を発展させ、多様な年金教育プログラムを構築することを目的として、キャリア選択と公的年金・私的年金について、パイロット授業を実施した。

■ 実施概要

①日本女子大学での開催事例

日時：6月27日13:20-15:00

外部講師：岩城みずほ氏

「人生100年時代。自分のライフプランに合わせた資産形成を」と題し、平均寿命が男性よりも長い女性がライフ・キャリア・マネープランをどのように考えれば良いかや、資産形成のポイントなどを講義した。



②帝京大学での開催事例

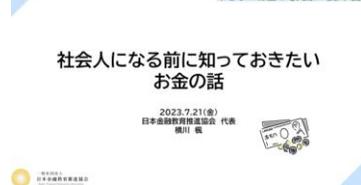
日時：7月21日14:45-16:15

外部講師：横川楓氏

「社会人になる前に知っておきたいお金の話」をテーマに、就職の際に知っておきたい給与の仕組みや、キャリア選択の際に注意しておきたいポイントなど、大学生のうちからできるお金との向き合い方について、わかりやすく講義した。



やさしいお金の専門家 横川 楓



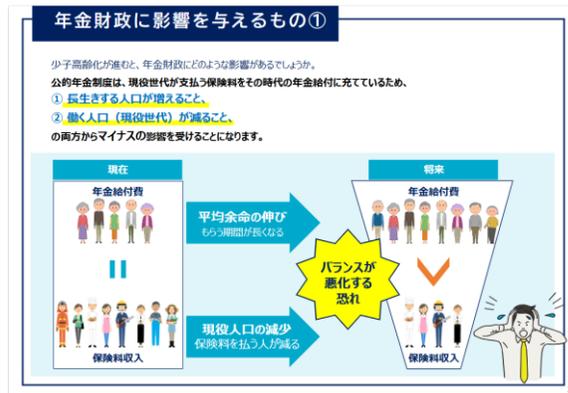
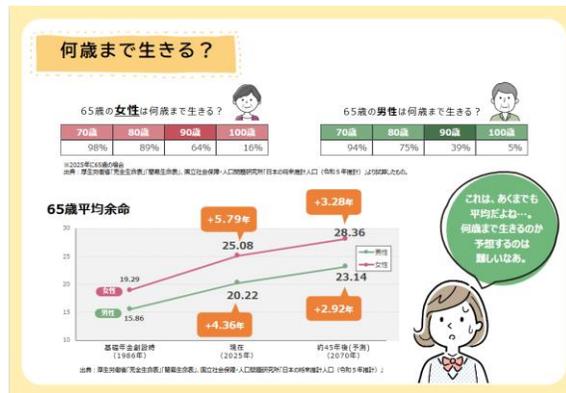
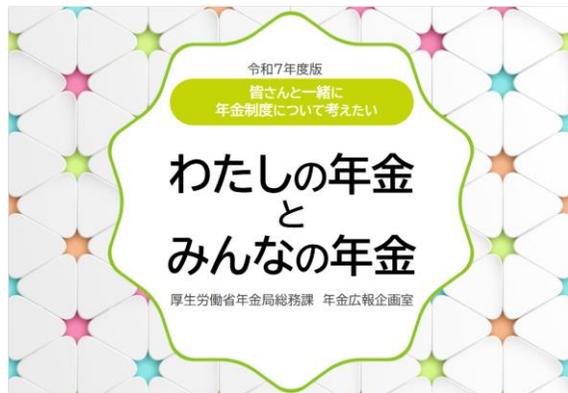
■ 学生アンケート（抜粋）

- ・普通なら就職後にされるお話を、大学生の今のうちから聞いたことはとても貴重だったなと思います。
- ・老後のお金はあまり自由度がないと感じていたが、自分で選べることを知ることができた。
- ・いつライフイベントでの出資があるか分からない中このように投資をとうしてお金を貯められることは良い事だなと思いました。
- ・今回の対話集会を終えて、公的年金をもとに私的年金を考えていくという発想は私には思いつかなかったため新たな発見だった。
- ・対話集会を通して、退職金についてそんなに多くもらえると知らなかったため驚いた。
- ・自分の人生について考え、いつどのくらいのお金が必要か踏まえた上で生活を送っていきたいと思った。

生涯を通じた年金教育の取組④ 学生年金対話集会（資料）

学生年金対話集会では、学生の年金制度に対する理解が進むよう、年金制度やデータを視覚的に理解できるようにインフォグラフィクスによる専用の資料を用いて、講演を行っている。

インフォグラフィクスを活用した学生対話集会用資料



アンケート結果抜粋

・講義のプレゼンテーション資料も可愛くてわかりやすかったし、対話集会での職員の方も笑顔で優しく話してくださいだったので驚きました。

・年金について全くと言っていいほど理解していなかったのですが、資料や話が分かりやすく、楽しく講義を受けることができました。省と聞くと堅いイメージがあったのですが、少し身近に感じることができました。

・大変見やすい資料と質疑応答の機会を設けてくださってありがたかった。年金などの硬そうな内容とデザインを組み合わせることでより触れてもらいやすくする工夫がされているということが、国民として嬉しかった。

・スライドの資料が非常にわかりやすく、またよく質問される事項（年金は本当に必要なのか、等）については私も疑問に思っていたところであったのですが、厚生労働省の方々のお話に説得力があり、非常に納得できました。

・スライドの資料を示しながら説明してくださったおかげで、話が頭に入りやすかったです。最後に質疑応答を行う時間も設けていただき、とても助かりました。

・配布された資料がすごくわかりやすく、年金がどのように決められているか理解することができたし、今後年金がもらえない可能性があるのではないかと不安を軽減させてくれた。

「学生との年金対話集会」開催実績

開催実績

令和元年度:大学6校、令和2年度:大学9校、令和3年度:大学24校、中学・高校4校、令和4年度:大学23校、中学・高校2校、令和5年度:大学36校
令和5年度は約1,200名の学生が参加。

令和元年度

愛知県立大学
北海道大学公共政策大学院
東北公益文科大学
県立広島大学
帝京大学
大妻女子大学短期大学部

令和2年度

東北大学
帝京大学
熊本大学
福岡大学
愛知県立大学
高崎経済大学
東北公益文科大学
成城大学
横浜国立大学

令和3年度

名古屋大学
一橋大学
お茶の水女子大学
上智大学
北海道大学
東海大学
熊本大学
帝京高等学校
帝京大学
市川市立第二中学校
愛知県立大学
愛知学院大学
立教大学
市川市立塩浜学園後期課程（中学校）
成城大学
盛岡大学
角川ドワンゴ学園
（N高等学校、S高等学校、N中等部）
東北大学
広島県立大学
京都産業大学
早稲田大学
大妻女子大学短期大学部
亜細亜大学
福岡大学
東北公益文科大学
東京大学
埼玉大学
立教大学

令和4年度

関西大学
盛岡大学
東京都立東久留米総合高等学校
一橋大学
お茶の水女子大学
東海大学
北海道大学
北海道大学公共政策大学院
名古屋大学
熊本大学
日本女子大学
帝京大学
角川ドワンゴ学園
（N高等学校、S高等学校、N中等部）
上智大学
東京経済大学
東北大学
亜細亜大学
成城大学
東北公益文科大学
大妻女子大学短期大学部
東北学院大学
東京大学
横浜国立大学
福岡大学
北海道大学公共政策大学院

令和5年度

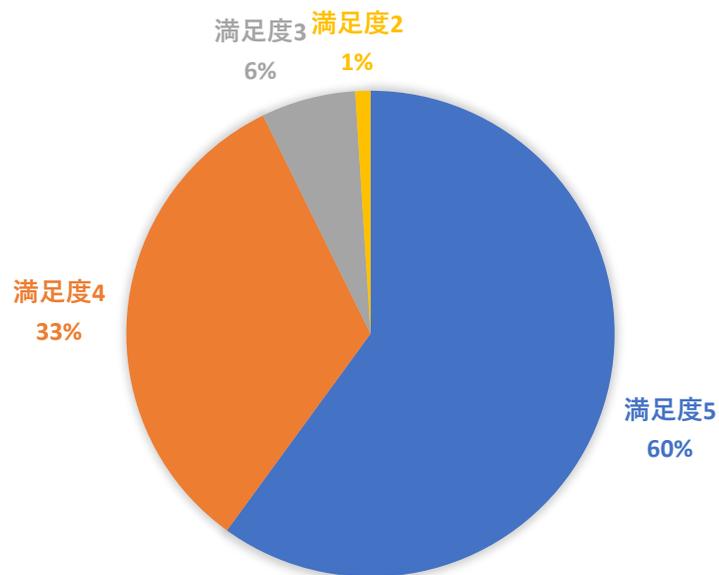
北海道大学
武蔵大学
立教大学
関西学院大学
一橋大学
東海大学
盛岡大学
名古屋大学
お茶の水女子大学
熊本大学
九州大学
相模女子大学
日本女子大学
北海道大学公共政策大学院
北海道教育大学
お茶の水女子大学
帝京大学
名古屋市立大学
南山大学
東北学院大学
早稲田大学
東京大学
東北大学
亜細亜大学
北星学園大学
北海道大学
大妻女子大学短期大学部
慶応義塾大学
神奈川大学
福岡大学
東北公益文科大学
成城大学
東北福祉大学
上智大学
近畿大学
埼玉大学

生涯を通じた年金教育の取組⑤ 令和4年度の実績について

■ 学生対話集会の出席者の満足度及び理解度

【満足度】

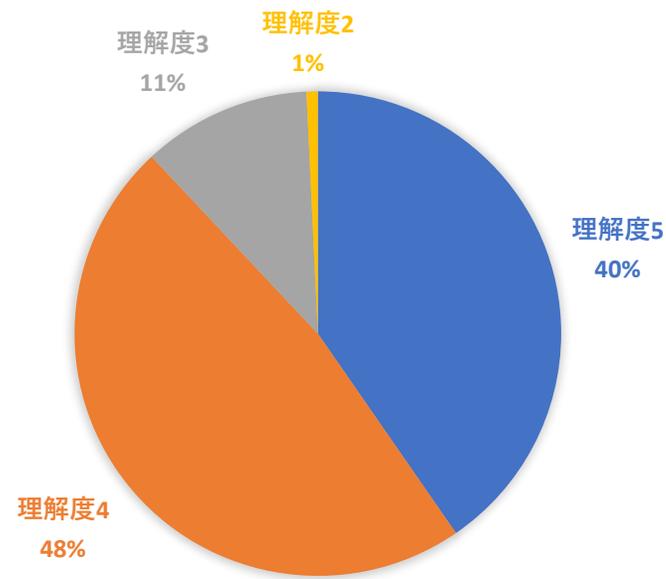
(不満) ←1-2-3-4-5→ (満足)



満足度5	240
満足度4	131
満足度3	25
満足度2	4
満足度1	0

【理解度】

(不十分) ←1-2-3-4-5→ (十分)



理解度5	162
理解度4	191
理解度3	45
理解度2	3
理解度1	0

■ 令和6年度大学生向けの年金対話集会の出席者からの主な意見（アンケート結果から抜粋）

【年金制度全般について】

・年金に対する不安感とか破綻するのではないのかと思うことがあったのですが、改良に改良を重ねてやってきていること、今まで働いてきた人が年金に対して払ってきたから実現している事実があることが知れた。

・年金については正直今までほぼ詳しいことは知らなかったのですが、今回お話を聞くまでは「真面目に納付していても将来は自分が払った額よりも減った状態で返ってくるのかな～」なんて漠然と考えていたのですが、実際は国庫負担や国の積立金も合わさって、元々払った額よりも高い額が給付されているということは新たに知りました。今までなんとなく抱いていた年金制度への不信感がだいぶ払拭された気がします。

・こうして内容に触れてみると知らなかったことばかりでしたが、同時に知らなくてはならないことばかりでもあり、これからの労働の必要性和意義が可視化され、私の中で義務感が生まれる貴重な機会となりました。健康に長生きし、何らかの方法で定年を過ぎても働くことができると目標を持つこともできました。中学生の頃から不安定だと言われていた年金制度ですが、不安定なだけで対策がないわけではないということ、きちんと知識として理解することができてよかったです。ありがとうございました。

・年金制度は家族であることが重視されていると思った。ディスカッションの時間で質問できなかったが、専業主婦で働いている夫からDVを受けている人などは将来十分な年金がもらえない不安から離婚できないと考えるのではないかと疑問を持った。

・高給と呼ばれる仕事につくので、老後資金への不安はない。むしろ株式債券運用の専門性をもっており、年金として徴収されるくらいならその分自分で運用させて欲しい。

・資産運用によって国民の負担を減らしたり、年金の上限額を決めることで過度に若い世代から年金を徴収しないようにしているとのことでしたが、物価高やインフレの現代においてこれらの制度だけで事足りているのか疑問に思いました。

・そもそも年金に頼らず、自分で老後の生活費を貯金しておくという考えは誰もがするものですが、実際は退職してから何年生きるのかの予想ができなかったり、自分が働いている時と老後の物価の差等の問題があったりと、実質的な価値を保証し賃金や物価に連動して決められる年金制度の必要性は大きいと思いました。（中略）今後世の中がどう変化するか、自分の身に何が怒るのか予想ができないため、年金に頼り切るのではなく、長く働く、資産運用といったことも考えていきたいと思いました。

・年金制度はなくし、ある一定以上の年齢から最低限の生活費を全員に支給し、それ以上欲しい人は民間の年金を利用すればいいと考える。年金を取りやめてその分税率を上げるのであれば納得できる人も増えるのではないだろうか。また年金を受け取る要件を満たしていないため、国民年金に任意加入をし、納付しなければならぬ人が出てくる。現在、国民年金保険料が免除になっており、これからも納付する余裕がなくなり、任意加入でも所得基準を満たしていれば免除になるよう制度を改正していくべきである。

・なぜ社会保障費や国民負担を減らす方向には議論がいかないのか。高齢者にばかり資金配分が偏り、若者や企業は見捨てられている感覚がある。国は小さくなるのに、なぜ社会保障は守り抜こうとするのか。

・保険料は現役世代が支払い、その収入をもとに年金給付が行われますが、少子高齢化が進む現代においては、支える現役世代の負担が重くなるリスクがある。そこで、保険料に上限を設け、その不足分を積立金で補う仕組みが導入されているらしい。しかし、これらの仕組みには限界もあるのではないだろうか。マクロ経済スライドは、経済成長が停滞した場合には十分な効果を発揮できず、年金額の実質的な価値を保つことが難しくなる。また積立金の運用が期待通りにいかない場合、将来的な年金給付に影響を及ぼす可能性もあると考える。さらに、少子高齢化の進行によって、現役世代の負担が増大し、社会全体での負担感が高まることもありうる。

※原文ママ

■ 令和6年度大学生向けの年金対話集会の出席者からの主な意見（アンケート結果から抜粋）

【適用拡大について】

- ・年収の壁は、既婚女性が年収を「壁」より少なく抑えるために、労働時間を制限するよう促す意味をもち、実質的に、正社員として働く既婚女性を不利に扱うものでもあると思う。日本経済は女性の労働力を強く必要としていて、キャリアを確立したいという意欲をいなく女性も増えている現代、制度は見直されるべきだと思う。
- ・自営業で年金をもらうより、企業に勤めながら年金を貰う方が良いなと個人的に感じました。男女でどのくらい働く年数が長いのか変わる部分もあるので、この先の働き方についても改めて考えていきたいなと感じました。
- ・今後高齢者がさらに増えることがわかっている中、できるだけ適用範囲を広げられようとしている試みは素晴らしいと感じた。今後、高齢者へのサポートはさらに拡充されていくのであろうと思ったが、出生率の向上、子育て支援などがないと現在日本が抱えている問題は全く解決されないと思う為、大変お忙しく、もちろん考えられていると思うがそちらの制度拡充にも尽力していただきたいと、今後子どもを持つ世代として思った。
- ・社会保険適用を拡大することについてのディスカッションで、「現在困っているから将来のことについて考える余裕がない人もいるだろう」という意見が出ましたが、まさに私がそれです。確かに受け取る年金は増えるかもしれないが、現在奨学金を借りながら大学に通っている身としては、手取りが減るということは結構な死活問題になると感じます。制度というものは色々な立場の人間がいるということを加味しなければならないため、決定するのも一苦労だと思う。みんながみんな苦労せずに暮らしていけるような世の中になればいいと思います。

- ・個人的には厚生年金の学生適用はありだと思っています。というのも、将来的に給付が増えることは良いと思いますし、それなりに需要もあると思うからです。ただ、長い目で見ると得かかもしれない制度も、今の生活に困っている人には厳しいことだと思うので、「今は手取りを最大化したい」という人、あるいは「手取りが少し減ってもいいから将来のために積み立てておきたい」という人、どちらにも寄り添えるように、強制的にするのではなく3階の私的年金のように任意にし、選択の余地があるといいのかなと思います。
- ・やはり、学生の段階から年金を回収するというのは、少し抵抗感があると思った。それこそ、東大の学費で大事になっているように、学生というのは勉強が本分でありながらも、金銭面の事情は多種多様である。就活をしているとかなり忙しく、お金がないという子も周りにいたので、そこは学生の経済状況をチェックした上で進めるべきだと思った。
- ・今年20歳になりますが、約月1.7万の年金は学生のうちは払うことが厳しいと思うので、今日教えてもらった学生納付特例を申請して、未納にならないようにしたいと思いました。

※原文ママ

■ 令和6年度大学生向けの年金対話集会の出席者からの主な意見（アンケート結果から抜粋）

【3号制度について】

・3割被保険者の話は、現在は裕福な家庭の主婦さんがというイメージもあり、そこを対象にと考えると納得できないというイメージも湧いてしまいますが、減ってはいてもやはり働きたくても働けない人がいて、そのような人を確実に保障するとなった時に、3号被保険者の制度は重要だと思います。

・3号被保険者制度を全く廃止してしまうのには反対です。3号被保険者の中には、産休、育休中で、仕事がしたくてもできない人もいるとのことがありました。そのような人たちは、会社の制度次第で仕事に復帰できるから、年金を払わない期間は一時的なもので、その期間にまで年金を払わせるのは酷かなと感じました。出産補助金などを出して出産を後押ししている訳だから、子育て政策に逆らっているように思います。出産育児を支援するという目的で、一時的に年金を払わなくてよいという制度もいいのではと考えました。

・今私は仕事をしていないし、子どももいないので第3号被保険者制度を廃止してもいいといいと考える。しかし、実際に子供が産まれて働き方も変わると考え方が変わることも予測できる。その一方で、制度が先に変われば人々の生活も変わることも期待でき、学生の立場では第4号被保険者制度を廃止し、保険料を叱る人数から徴収し、年収の壁にとらわれることなく働き、それぞれが収入を得ることも必要だと考える。

・少子高齢化に伴って労働力が減少している現在、専業主婦など、働かない人材がいることは勿体ないことだと思う。やむを得ずに働けない人もいるかもしれないが、第3号被保険者制度を徐々に無くして、働く人を増やし、そういう人からもお金を集めるべきだと思う。

・第3号被保険者制度について、所得の低い共働き世帯から相対的に所得の高い片働き世帯への事実上の補助となっているという課題を感じました。また、片働き世帯の働いている側からしたら、自分の年金受給額は配偶者がいると相対的に下がることから、所得のない相手と結婚するメリットが少なく、この制度をきっかけに積極的に単身でいようとする人はいないのか疑問に思いました。

・第3号の存在意義がよく分かりません。「扶養される」側であることや、多くの時間を労働に割けないという点では専業主婦は学生とあまり変わらないのではないかと感じました。現在の第3号被保険者を全員第1号に組み込むというのは良くないのでしょうか。あるいは、第1号であっても就業調整の必要があるため、基礎年金の受給のために少額の負担を全員に課するというのはどうなのかと思いました。

・具体的な事情を知ってみると、確かに多くの第3号被保険者の方はたくさん働いた分から引かれて年金になるよりも、控えめに働いて何も払わずに年金を受けとる方が、心身の負担的にも魅力的に見えるのかなと思いました。現在の二ズを考えると第3号被保険者の枠は必要であると思いますが、人数は年々減ってきている上に、今後両性が平等に扱われる社会に徐々に変化してくることを考えると、自然と第3号被保険者制度は二ズがなくなってくるのではないかと思います。

・第3号が問題になっていることや遺族年金の問題は、昔の考え方に合うもので今の考えには合わないから問題なのだと思います。現在は、まだ私の両親の世代などは昔の考え方に合った働き方をしていますが、今後は夫婦共働きが当たり前になり、今ある問題が自然に消滅するのではないかと考えています。

■ 令和6年度大学生向けの年金対話集会の出席者からの主な意見（アンケート結果から抜粋）

【遺族年金について】

- ・遺族厚生年金について、男女間の格差がいまだに大きいことを知りました。晩婚化や共働き世帯の増加など、格差解消には様々な要素が関わると思いますが、次の改正、また次の改正と、格差是正がなされていくとよいと思いました。
- ・社会が変化する中で、本当に様々な問題が生じているのだなと思いました。年金制度にまで男女の不平等があるとは思っていなかったけれど、日本の社会でまだ男女が完全に平等ではない今、年金制度にどれだけ平等を反映するかは、とても難しい問題だと思いました。
- ・女性に対しての給付の多さはむしろ労働意欲を低下させているのではと思いました。個人的には、有期給付は男女ともに就労していなかった場合に適用し、無期給付は男女ともに65歳以上で十分であると感じました。一方で、4、50代で死別した場合、すでに高齢の方であったり、国家資格等を持っていなかったりする方は就職しづらいと思うので、（そもそもそのような状況を変えるべきですが）65歳になるまでの期間は遺族年金として給付するべきだと思います。
- ・遺族年金について男女の差をなくすとしたら、子どものいない配偶者が男女関係なく45歳や50歳くらいから支給にすればいいという意見が出ました。私が知識不足なだけかもしれませんが、子どもがいない配偶者の場合は結婚した時点で仕事を辞めていることは少ないと思うので男女とも5年の有期支給にするのも手かなと思いました。
- ・妻が亡くなった場合、受給できるのは55歳以上になってからという制度について、年齢について改正の際に引き下げるなりなんらかの改善をするべき。

・LGBTQやSDGsが騒がれている昨今において日本の年金制度および法律に関してやや古臭いところはまだ残っているなど感じました。見直すべきところが今回の講義の内容意外にも沢山あるのではと思ってしまいました。

・男女差があることが不公平だなと思った。ジェンダーレスが認められていく中で男女の差があるということはおかしいと思いました。

・今の遺族年金制度は男女によって差があります。なので、男性側が遺族年金を受け取る際に配偶者が亡くなった際に55歳などと決まりをつけるのではなく年金を受け取る本人が普段の生活に戻れるまで年金が受け取れるような制度を男女平等に制定するべきだと私は考えました。

【基礎年金拠出期間45年化について】

・45年制度？には私は賛成だなと思いました。

・まだ働いておらず、仕事のしんどさはわからないので、45年制度になっても良いかと思います。

【在職老齢年金について】

・65歳～75歳へと勤務年齢が長くなる中で、（在職老齢年金廃止などで）長期で働くことが社会全体にとって本当に得があることなのか疑問に思う

※原文ママ

■ 令和6年度大学生向けの年金対話集会の出席者からの主な意見（アンケート結果から抜粋）

【私的年金等について】

- ・私的年金についてはあまり知らないことばかりでしたが、少額からできることや、様々なものを組み合わせると、リスクも少なく出来ると聞いて、とても良い印象を持つことができました。
- ・社会の風潮で、将来の年金が危ないような雰囲気があったが、今回の授業で実際はもっと安定しているということが分かりました。自分の将来のことだから、iDeCoも含めて、もとを考えていきたいと思いました。
- ・年金だけでは生活できないと感じたので、NISAやiDeCoで自分のための貯蓄をしたい
- ・若年層の将来についてよく考えた制度が様々あり、将来に対する安心感を感じました。
- ・iDeCoの手続きの簡易化と金融機関の営業担当や専門家が相談に乗ってくれる体制づくりをお願いします。

【年金財政全般について】

- ・マクロ経済スライドはよくできた仕組みだと思いました。
- ・年金制度は現代の社会では高齢者をサポートする仕組みになっているが、今後社会人になった時にさらに負担になるのではないかと不安にもなる。また、周りからよく聞く、年金なんてきつともらえないという声や額が減るとい声も耳にすることがあり少し不安になるという気持ちもあったが、色々な施策を考えていて、私たちの世代にもしっかり年金が支払いされる設計になっていることが安心材料となった。
- ・物価に応じて毎年年金額の調整が行われることに関して、妥当な措置で、ちゃんと考えられているんだなと感じた。
- ・持続可能な年金制度を目指すうえで、マクロ経済スライドの発動要件を緩和したほうが良いと個人的には感じています。
- ・今後若者が減っても保険料納付額には上限があって、それに合わせて年金の給付額が決まるとなっていたので、今後、自分たちの払う額が上がらないことは分かりました。ただ、物価が上がり切った状態や、社会的に厳しい状況になった場合など、相対的に見るとやはり生活費に対しての年金は減り、損をしてしまうのではないかと感じました。表などを見たところ積立金も徐々に減っているように思いましたし、そこは国庫負担だけで賄っていけるのだろうか、という疑問を抱きました。

令和6年度上半期では、これまで実施してきた大学生向けの年金対話集会に加え、高校生向けの年金対話集会を実施（7校、約600名受講）。授業では、高校生が年金制度に興味を持ち、楽しく学ぶことができる新たな年金教育教材を活用し、年金制度に対する意見を聴取した。

■ 令和6年度高校生向けの年金対話集会の出席者からの主な意見（アンケート結果から抜粋）

【公的年金の意義】

- ・年金制度は人の思いやりでできたものなのかなと思った。
- ・年金制度は高齢者の方だけに対する制度ではないと分かった。
- ・色々な年金があり、私たちがいまこの瞬間にも使うかも知れないと思った。
- ・物価高のときの高齢者の方と安いときの高齢者の方でもらえる額が異なるため、市民の不平等感をなくすために、制度についてよく考えることが大事だと学んだ。
- ・年金はシンプルだけど奥深いような仕組みは知れば知るほどワクワクしました。年金は面白いことを知れて良かった。

【働き方・暮らし方と公的年金】

- ・公的年金シミュレーターが面白かった。（多数）
- ・年金のシミュレーションでどう働けばどのぐらいの額がもらえるか想像しやすくなった。
- ・年金受給を送らせた方が受給額も増えるため、体が元気にうち働いて少しでも多く年金を受け取りたい。

【公的年金の財政方式】

- ・親がよく「いまの若者が高齢者になる頃には年金なんてもらえないかもね」と言っていてなんとなく不安だったがマクロ経済スライドの仕組みを知って安心した。
- ・昔は積立方式をしていたが、賦課方式に変更された理由を考えられたことでより知識が深まった。
- ・将来の年金制度の変化について考えるのがすごく面白かった。厚生労働省が考える年金制度のすごさを改めて感じた。
- ・思った以上に国が長期的な視点でお金を貯めていたりしてうまく出来ているなと思った。

【年金不安】

- ・私たちは重い負担を負うだけで将来年金がもらえないなどと間違った情報で不安に思うことがあったので、正しい情報を知れて良かった。
- ・年金について不安を煽るような記事が多いけど制度を改善していけば安心できる。

生涯を通じた年金教育の取組⑥ ソーシャルメディアの活用（動画第1弾）

2021年度より、著名なインフルエンサーとのコラボ動画を制作し、YouTuberを通じた広報を実施、全4作で402万回視聴されている。第1作目では、年金制度の意義や年金財政に関する基礎的な考え方に関する内容を取り扱っている。

2021年3月

YouTube動画『年金について日本一わかりやすく説明しようと思ったらこうなった』



公開日:2021年3月24日

視聴回数:101万回

■視聴者からのコメント(抜粋)

- ・以前障害年金の仕事してた時、若い時に年金払ってなくて受給できなかったって人何人もいて、年金制度を教えてくれる場面がなさすぎることに憤りを感じてたんだけど、ずっと感じてたモヤモヤを大好きなクイズノックが少しでも取り扱ってくれて嬉しかった… みんな、嫌だけど年金払おうね
- ・クイズノックにコメント読まれたいんじゃないかって！厚労省の方へ届け！こーゆー案件、どんどんください！すっっごく勉強になります
- ・毎月引かれて悲しくなる年金保険をQuizKnockで楽しく学べるの最高！厚労省さんまたお願いします！
- ・めっちゃくちゃわかりやすい！ちょうど年金などについて調べてたところだったから、嬉しいし理解出来た！こういう色んな世代が世の中のことを学べる企画、沢山やって欲しいです！！(*^*)
- ・22歳です。中学生くらいから見たかったな。
- ・若年層に人気あるQKがこういう動画をしっかりした提供で出してくれるの本当に大事！
- ・これをきっかけに若い子たちが興味を持てるのかなと思う。
- ・これ、学校の授業で流して欲しい。

生涯を通じた年金教育の取組⑦ ソーシャルメディアの活用（動画第2弾）

本動画では、老齢年金に関する受給資格や老齢年金の計算方法を紹介するとともに、公的年金シミュレーターの利用方法を取り扱っている。

2022年3月

YouTube動画『東大生が年金について考えてみた【QuizKnock塾】』



公開日:2022年3月31日

視聴回数:65万回

■ 視聴者からのコメント(抜粋)

- ・役所で年金を担当する地方公務員です。年金担当になってすぐにこの動画に出会えたかったくらい分かりやすくまとめられていて感動してます👍！年金について詳しくない学生にこそこの動画に出会ってほしい！！
- ・前日にこの動画を観ていたおかげで、4/1に封筒が届いてすぐ学生納付特例制度を確認したり、同じく4月生まれと同級生に相談されたときも慌てずに該当するホームページを教えられたりしたのでめちゃくちゃ感謝……！
- ・学校で教えてくれない常識の話を、QuizKnockが楽しい動画で分かりやすく説明してくれるのがすごくありがたい
- ・学校とかで配られるパンフレットとかじゃ難しいしよくわからないけどQuizKnockの動画面白いし興味が持てる
- ・後でいいや～と思ってた追納について調べてねんきんネットの登録まで爆速で済ませたのでQuizKnockはすごい
- ・社会人なってもなかなか年金について分からないことが多い。大切なのはわかってても、なかなか取っ付き難いから、こうやって知れてよかった。シミュレーター便利…
- ・「学生納付特例」とか「個人年金」とか「いくら貰えるからいくら自分で貯めなきゃ」という視点を与えてくれる須貝さんはMVP解答者。そして覆面算しなくて良いシミュレーターのありがたみ。
- ・次の年度の直前という最高に配慮されたタイミング 流石です。

生涯を通じた年金教育の取組⑧ ソーシャルメディアの活用（動画第3弾）

本動画では、障害年金、遺族年金にフォーカスし、受給要件を解説するとともに、年金制度が老後のためだけにある訳ではなく、現役に世代における様々なリスクを公的年金制度ではカバーしていることを解説している。

2023年3月

YouTube動画【助けてQuizKnock】悪魔スガイが乱入してきて年金講座が進まない



公開日:2023年3月31日

視聴回数:72万回

■ 視聴者からのコメント(抜粋)

- よく言う、自分たちが年寄りになったら年金もらえないかもしれないから納めるの損かもかっていうあれは「そうじゃないよ！」ってしっかり分かる大事な情報でしたね。20歳になったその時から、次の日に必要になるかもしれないということをしっかり理解できる動画でとても良かった ✨ 受け取るためにはきちんと払いましょう 😊 ですね！
- 保険料の支払いをしていきましよう的な案件かと思いきや、障害年金を受け取れる可能性あるかもの話でちょっと感動です。受け取れるの知らなくて苦しい状況にある人に届いてほしい。
- 数カ月越しのコメントになりますが、重い発達障害と抑鬱で、まともに仕事が出来ず困窮していた時にこの動画で「障害年金」の存在を知りました。国の制度の為、手続きはそれなりに大変で、時間がかかりましたが、つい先日、申請を終えることができました。
- 障害手帳6級です。まず障害等級というものがあるのを初めて知りました。障害年金は諦めていたのですが、障害厚生年金というものがあるのも初めて知りました。自分が無知だっただけですが、こうやってインフルエンサーの方が発信してくれることで自分のような人にも情報が届くのは大変助かります。
- 一昨年に障害者手帳を取得したものの、障害年金については詳しくなく、申請についてはずっと二の足を踏んでいました。けれど、今回の動画をきっかけに近所の年金事務所に行き、障害年金の申請をすることにしました。きっかけをくださったQuizKnockのみなさん、ありがとうございました！

生涯を通じた年金教育の取組⑨ ソーシャルメディアの活用（動画第4弾）

本動画では、キャリアプランと公的年金・私的年金の将来受け取り見込み額の違いにフォーカスし、国民年金と厚生年金に加入した場合の年金額の違い、iDeCo等の私的年金に加入した場合の年金額の違いについて解説している。

2024年3月

クイズ王ならたまたま近くに座ってる人の会話から人生読み取れる説



公開日:2024年3月29日

視聴回数:164万回

■ 視聴者からのコメント(抜粋)

- ・年金って義務教育で習わないから全然知らなかったけど、この動画で少しだけかもだけど理解が出来た気がする～学ばなきゃなあ
- ・年金って、たまに届くハガキや難しい手続きでしか確認できないと思ってなんとなく敬遠してきたから、シミュレーターでざっくり確認できたのも嬉しいししっかり考えようと思えた
- ・企業型DCを採用してる会社に勤めてるけど、会社からの説明じゃ全く分からなかったものがQKの動画で理解出来ました…😄勉強になりました、ありがとうございます。
- ・年金って難しいイメージあるし、未だよくわかってないけど、QuizKnockの皆さんが楽しく分かりやすく説明してくれることによって、私みたいな学生も多少は知ることができるから本当にありがたい！！😭💜
- ・”ナイスくん”はかなりツボでした😄厚生労働省さん、今回もありがとうございます！回を重ねるごとに年金の大事さを実感していて、そろそろ20歳になるので色々と考え出そうかなと思います👍
- ・まさかの年金クイズ第四回まで行くとは…(同じ企画の回数としては一位タイ)ついでに職業クイズも第二回あるとは思わなかった…そして寸劇が滅茶苦茶上手い！
- ・義務として払う年金だけでなく、自らしっかりと自分自身のことを考えて年金を組み合わせたなんて思った！！何事も受け身にならないって大事ね

中高生向け年金教育教材の特徴（年金教育動画の利活用）

厚生労働省が QuizKnock と

年金の授業を制作しました！

過去4回制作されたコラボ動画から、必要な箇所をピックアップ。再編集された動画を見ながら楽しく学べる教材です。

楽しみながら年金に
くわしくなろう！



都内の高校で授業を実施

QuizKnockメンバーが実際に授業を行いました。生徒からは年金制度の知識が深まったとの声が多数寄せられました。



年金広報の活動が特別優秀賞を受賞！

厚生労働省の年金広報企画室がISSA Good Practice Award competitionで特別優秀賞を受賞しました。QuizKnockによる広報動画を含む様々な広報活動が評価され、日本初の入賞となりました。

今までの コラボ動画

第1弾

年金について日本一わかりやすく説明しようとしたらこうなった



QuizKnockが年金制度について全力でガチのクイズ番組を作りました！

<https://www.youtube.com/watch?v=KrKPt05Jsvk>



第2弾

東大生が年金について考えてみた【QuizKnock塾】

計算せよ↓

71歳から※8歳までの
8年間、
年取A√0万円の
一般企業に勤務した場合の
公的年金はいくら？



QuizKnockによる年金クイズ番組第2弾！
将来のお金のことを、年金ガチ勢と一緒に考えてみましょう。

<https://www.youtube.com/watch?v=8B6LqFUxsvQ>



第3弾

【助けてQuizKnock】悪魔スガイが乱入してきた年金講座が進まない



ふくらPの年金講座に突如悪魔が乱入!?果たしてメンバーは最後まで講座を受講できるのか！

<https://www.youtube.com/watch?v=x-EaPF867Q0>



第4弾

クイズ王ならたまたま近くに座ってる人の会話から人生読み取れる説



QuizKnockなら隣に座ってる人の会話で職業当てられるよね？ついでに将来の年金も……？

<https://www.youtube.com/watch?v=dRAatyKwJlI>

